

平成19年度事業報告

I 総務会・渉外

1. 担当理事 殿崎正明（専務理事・日医）、宇野彰男（北医）、北川正路（慈恵）、
杉田奈津枝（関西）

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

1) 雑誌価格高騰への対応（通年）

雑誌委員会報告を参照

2) 医学図書館員教育の強化（通年）

教育・研究委員会報告を参照

3) 認定資格制度の本格運営（第8回・平成19年7月申請より）

認定資格運営委員会報告を参照

4) 機関会員、個人会員の入会促進（通年）

会員の入会推進を図った。

①入会

正会員B 4 機関

同志社大学生命医科学部設置準備室

日本歯科医師会図書館

千葉県がんセンター図書室

国際医療福祉大学図書館

正会員D 14 名

維持会員 2 機関

iNEO 株式会社

日本心理療法研究所

②退会

正会員D 6 名

③平成20年3月31日現在の会員数

正会員A 86 機関

正会員B 39 機関

正会員C 0 機関

正会員D 90 名

協力機関 1 機関

維持会員（機関） 31 機関

維持会員（個人） 3 名

5) 新規受託事業の推進 (通年)

①日本泌尿器科学会及び日本乳癌学会より診療ガイドライン作成協力事業を受託

②NPO 法人医学中央雑誌刊行会の研究助成受託

6) 国立ライフサイエンス情報センター (仮称) の具体的協議の開始

国立ライフサイエンス情報センター (仮称) 推進準備委員会において実施

7) 日本薬学図書館協議会 (JPLA) との連携強化

教育・研究委員会、雑誌委員会、機関誌編集委員会において実施

8) 国際交流の推進 (通年)

①韓国医学図書館協議会 (KMLA) との交流

日本医学図書館協会第 78 回総会に 2 名を招聘

KMLA 主催の第 39 回秋季学術大会に 1 名が参加。

②KMLA への文献複写提供 14 件 (平成 18 年度 43 件)

9) 寄付

丸善株式会社 10 万円

株式会社紀伊國屋書店 10 万円

10) その他

①資料等の共同購入

図書館年鑑 32 冊 (平成 18 年度 43 冊)

INSET TAPE 146,000 本 (平成 18 年度 138,000 本)

②米国国立医学図書館 (NLM) 所蔵資料複写依頼

1,765 件 (平成 18 年度 1,632 件)

③総会

第 78 回総会 (平成 19 年 6 月) 関東地区 埼玉医科大学附属図書館

第 79 回総会 (平成 20 年 5 月) 北海道地区 北海道医療大学総合図書館

第 80 回総会 (平成 21 年 5 月) 近畿地区 滋賀医科大学附属図書館 (予定)

3. 問題点

1) 診療ガイドライン作成協力事業を含め、受託事業に関して、委託者の交渉や作業分担管理のための体制作りが出来なかった。次年度の課題となる。

II 企画・調査

1. 委員

担当理事 杉田奈津枝 (関西)、土佐智義 (広島)

委員長 青木裕子 (天理)

委員 伊藤淑子(阪齒)、伊藤芳幸(個人)、大瀧博久(島根)、吉富啓子(近畿)

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

- 1) 「第78次加盟館年次統計」の発行
計画どおり発行した。
 - ① 7月 データ提出
 - ② 9月 中間報告版をホームページに掲載
 - ③10月 完成版をホームページに掲載した。また、希望会員には簡易製本版を作成して販売した。
- 2) 「第58回重複雑誌交換事業」
計画どおり実施した。
 - ① 7月 データ提出
 - ②10月 交換リストをホームページに掲載
 - ③11月～12月 交換
 - ④ 1月 報告書提出(総提出冊数53,896 総申込冊数16,399 総受領冊数12,582)
 - ⑤ データ編集を委員会でおこない、外部委託を中止して経費の節減に努めた。
 - ⑥交換リストは無料配布とした。
- 3) 「要覧2007」の発行
計画どおり7月付で発行した。
 - ①加盟館に1部無料配布し、追加分は有料配布した。

3. 問題点

- 1) 「第78次加盟館年次統計」
 - ①調査項目中、誤記入の多い項目について追加説明文を工夫する。
 - ②学外者利用の項目が分散していたのでわかりやすく変更する。
- 2) 「第58回重複雑誌交換事業」
 - ①経費節減のため外部委託を中止し、委員会によるデータ編集にしたが、想像以上手間がかかったため、提出データの書式を徹底してもらうよう、きめ細かなマニュアル作りをおこなう。
 - ②データ提出報告書の未提出館が多いので依頼メール本文にも『データ有無に関わらず報告書提出』の旨を記載する。
 - ③ネットを介した交換事業の実施方法について検討する。
- 3) 「要覧2007」
 - ①原稿ミスのチェック
発行後の訂正箇所が数箇所あった。当委員会での原稿チェックは限界があるので原稿を提出される際には慎重なチェックをお願いする。
- 4) 加盟館名の統一について
 - ①要覧、会員名簿、年次統計、現行医学雑誌所在目録、協会ホームページに掲

載されている館名称が統一されていない。年に一度調査をして正式名称を把握しておくよう、また統一名称を決めるよう中央事務局に願う。

4. 理事会（総会）での協議事項、承認事項

1) 「第58回重複雑誌交換事業」

①データ編集の外部委託を中止し委員会でやる。

②交換リストは配布無料とする。

2) 「要覧2007」

①加盟館には1部無料配布し、追加分は有料配布とする。

Ⅲ 機関誌「医学図書館」編集

1. 委員

担当理事 橋田圭介（高知医）

委員長 大谷 裕（東医）

委員 伊東麻絵（昭和）、内生蔵洋子（聖マ）、加藤砂織（東女）、
小林晴子（愛医）、小林祐子（個人）、齋藤えりか（慈恵）、
菅 修一（滋賀）、園原麻里（慶應）、矢野大介（女栄）

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

委員会開催

第1回 平成19年7月11日

第2回 平成19年11月26日

第3回 平成20年2月22日

年間目標に対する達成度

1) 「医学図書館」54巻2号～55巻1号の発行
年間計画どおり発行した。

2) 「医学図書館」についてのアンケート実施
現在まで未実施。5月末までに実施の予定。

3. 問題点

1) 編集委員の確保

機関会員内の職員減員などの諸事情により、編集委員の確保が困難となっており今後検討を要する。

4. 理事会（総会）での協議事項、承認事項

1) 機関誌編集校正システムの導入

2) 本誌総頁数の削減

3) 編集委員会の本年度開催を年3回に決定

4) 本誌連載講座の韓国医学図書館協議会「機関誌」への翻訳転載許可

5) 本誌の執筆謝金の改定

IV 出版

1. 委員

担当理事 橋田圭介（高知医）

委員長 浅井将行（昭和）

委員 石谷 真（東医）、宮明秀幸（国医情）、村田泰子（日医）、
山下和美（防医）

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

委員会開催

第1回 平成19年9月11日

第2回 平成20年2月21日

年間目標に対する達成度

- 1) 「現行医学雑誌所在目録2008」の発行
順調に進行し平成20年5月発行予定。
- 2) 「現行医学雑誌所在目録」についてのアンケート実施
現在まで未実施。5月末までに実施の予定。
- 3) 「米国国立医学図書館蔵書構築マニュアル翻訳版」の発行
平成19年度発行を予定していたが年度内に発行できなかった。
翻訳原稿は完成し、現在は米国監修者と最終調整中であり、近々発行の予定。
- 4) 「医中誌Web版の使い方（仮題）」の出版を企画
執筆者との打ち合わせを行い、平成20年度発行に向け企画進行中。
- 5) 「図書館員のための統計学入門（仮題）」の出版を企画
執筆者と調整中、発行時期は未定。

3. 問題点

- 1) 「米国国立医学図書館蔵書構築マニュアル翻訳版」の発行
諸事情により昨年度につづき、出版延期となった。原著者との調整など出版準備に時間を要することもあり、今後の翻訳出版は発行の是非を含めて検討する必要がある。

4. 理事会（総会）での協議事項、承認事項

- 1) 「現行医学雑誌所在目録2008」の冊子体発行と割当販売
- 2) 執筆謝金の改定
- 3) 「現行医学雑誌所在目録」事業への日本薬学図書館協議会の参加

V 広報

1. 委員

担当理事 北川正路（慈恵）

委員 黛 崇仁（東歯）

*ホームページ担当ワーキンググループ

担当理事 北川正路（慈恵）

委員長 川崎かおる（岩手）

委員 今林安雄（九大）、竹島雅美（香川）、西野正敏（福井）、
黛 崇仁（東歯）、宮崎隆志（北療）、森田奈津子（慈恵）、
安田多香子（愛がん）、善見尚子（関西）

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

1) JMLA の諸活動、各委員会・地区会活動の会員への報告

① 委員会議事要録の報告

各委員会に会議開催後は迅速に議事要録を作成するように依頼し、すみやかにホームページに掲載した。

② 「からだところの情報センター」ポータルサイトのホームページ掲載

国立ライフサイエンス情報センター（仮称）推進準備委員会にて準備された標記ポータルサイトの内容を協会ホームページ上に掲載した（平成 19 年 12 月）。

③ 機関誌「医学図書館」の協会ニュース欄の活用

ホームページやメーリングリストを利用した連絡が中心となってきたが、会員への必要な情報の伝達が漏れないようにするために、標記ニュース欄を活用した。

④ 各委員会活動のホームページ利用の促進

加盟館統計調査、重複雑誌交換、出版情報掲載、研修会参加者募集などにおいてホームページが利用されたが、ホームページ活用による委員会活動の効率化に協力した。

また、ホームページにカレンダーを設けて、各委員会の日程を掲載した。

⑤ JMLA 関連名称の英語表記について

諸事業、委員会名の英語表記案を作成し、理事会の承認を得た（平成 19 年 10 月）。

2) JMLA の各活動の会員外への宣伝

協会案内パンフレット改訂版を作成し（平成 19 年 12 月）、関連団体主催のセミナーやシンポジウム開催時に配布を依頼した。

3) 総務会・渉外担当理事との連携

会員への広報、関連団体との協力、会員外への宣伝を促進するために、総務会・渉外担当理事との連携をはかった。

4) JMLA ホームページの管理

各地区に点在するホームページ担当ワーキンググループ委員の作業を円滑に進めるため、更新・管理作業の流れと各委員の分担を取り決めた。

5) 各地区会の活動内容の伝達

地区会事務局の設置に伴い、ホームページ担当ワーキンググループ委員と地区会事務局の連絡を密接にして、各地区会の活動に関する情報のホームページへの掲載の充実を図った。

6) 関連団体との情報交換

関連団体からセミナーやシンポジウムの案内があった際、ホームページに案内を掲載した。

なお、事業の協力に関する情報交換は、総務会・渉外担当理事が担当した。

3. 問題点

- 1) 平成 19 年度の目標として総務会・渉外担当理事と本委員会の連携を掲げたが、それぞれが別個に広報関連活動を進めることが多く、両者の連携体制の整備が課題として残った。
- 2) 各地区会の活動情報のホームページへの掲載を促進したが、研修会の開催通知や報告など、掲載内容に漏れが生じた。
- 3) 会員が手軽に JMLA の各事業の現状を把握して意見交換をすることができるために、ホームページやメーリングリストなどのコミュニケーション手段の効果的な活用を図る必要がある。

VI 雑誌

1. 委員

担当理事 宇野彰男(北医)

委員長 阿字川和雄(東女)

委員 桐原真哉(横浜)、熊谷智恵子(連中)、島田和浩(東歯)、
南野典子(慶應)、前田哲治(神戸)

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

- 1) 日本薬学図書館協議会(JPLA)雑誌問題検討委員会と協力しコンソーシアムを推進。

別紙参加状況一覧にあるとおり順調に参加館数は伸びている。またコンソーシアム参加目的での入会も増えつつある。

2) コンソーシアム説明会を9月下旬に開催。

9月21日(金) 毎日コミュニケーションズ(竹橋) 参加者107名

近畿地区でも9月27日(木) 大阪大学附属図書館生命科学分館で開催された。

参加者54名

3) 他コンソーシアムとの協力を推進。

RSC、Science についてはPULCと協調が成立した。

4) 分担購入のあり方について実情にあった見直し。

分担購入および分担保存についてのアンケートを実施した。分担購入については継続。

5) 第78回総会において第4分科会を担当する。

平成19年6月1日におこなわれた大宮総会で、学術雑誌問題をテーマとした分科会を雑誌委員会で担当した。参加者は76名。

6) コンソーシアム交渉のための要員を補強する。

何度か主任メールで教員の推薦をお願いしたが今のところ申し出はなかった。

3. 問題点

委員が4名異動・退職等により辞任するため後任の補充が必要となる。

4. 理事会(総会)での協議事項、承認事項

1) 雑誌委員会内規の改定

2008年 JMLA/JPLA 電子ジャーナルコンソーシアム 参加状況一覧

(2008/4現在)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
American Chemical Society	Annual Reviews (5タイトル)	Annual Reviews (12タイトル)	Annual Reviews (29タイトル)	Blackwell (大学)	Blackwell (企業)	BMJ Publishing Group	Cambridge U.P 24誌パッケージ	EBSCO CINAHL	EBSCO Cochrane Collection Plus	EBSCO DynaMed	EBSCO MEDLINE with Full Text	EBSCO SMART Imagebase
91 (薬A:33 薬B:37 薬C:9 医:12)	8 (薬A:3 薬B:2 薬C:1 医:2)	14 (薬A:4 薬B:1 医:9)	不成立	56 (薬A:16 薬C:3 医:37)	5 (薬B:5)	27 (薬B:2 医:25)	3 (薬B:1 薬C:1 医:1)	63 (薬A:10 医:53)	2 (医:2)	8 (薬A:1 医:7)	13 (薬A:6 医:7)	3 (薬A:1 医:2)

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
EBSCO SPORTDiscus with Full Text	Elsevier Science Direct	EMBO Set (EMBO J + EMBO Rep) (大学)	John Wiley and Sons E.A.L (大学)	John Wiley and Sons E.A.L (企業)	JST JDream	Karger	LWW Fixed 100	LWW Fixed 50	Medical Online	MICROMEDEX Healthcare Series	Nature本誌 (大学)	Nature本誌 (企業)
3 (医:3)	1 (薬A:1)	72 (薬:25 薬C:6 医:41)	63 (薬A:22 薬C:2 医:39)	24 (薬B:24)	16 (薬A:7 医:9)	16 (薬A:1 医:15)	54 (薬A:6 医:48)	8 (医:8)	68 (薬A:14 薬B:10 薬C:1 医:43)	2 (薬A:2)	88 (薬A:33 薬C:8 医:47)	34 (薬B:34)

27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
Oxford University Press	PierOnline	ProQuest	RefWorks (文献管理データベース)	Rockefeller U.P	Royal Society of Chemistry	Science	Springer Link (大学)	Springer Link (企業)	Thieme 薬学系5タイトルパッケージ or 薬学系個別オンライン	Thieme JPLA 医学系6タイトルオプション	Thieme 医学系32タイトルパッケージ	Thieme Synlett, Synthesis Back File (単年毎)
26 (薬A:7 薬B:4 薬C:1 医:14)	4 (医:4)	48 (薬A:5 医:43)	7 (医:7)	45 (薬A:9 薬B:8 薬C:2 医:26)	19 (薬A:12 薬B:7)	82 (薬A:20 薬C:1 医:41 PULC:20)	36 (薬A:12 薬C:4 医:20)	16 (薬B:16)	45 (薬A:22 薬B:19 医:4)	3 (薬B:2 医:1)	4 (医:4)	2サイト (薬A:1 薬B:1)

Ⅶ 教育・研究

1. 委員

- 担当理事 市古みどり(慶應)
委員長 野坂美恵子(東医)
委員 渡辺由美(日医)、諏訪部直子(杏林)、小島恵美子(医師)、
山田有希子(東厚年)

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

1) 教育・研究委員会を7回(5/18、6/28、7/26、9/14、10/29、12/3、2/20)開催し日本薬学図書館協議会との合同委員会(7/26)を開催した。

2) 第78回NPO法人日本医学図書館協会総会

メインテーマ「新しいときを求めて」

開催地区：関東代表機関：埼玉医科大学附属図書館

日時：平成19年5月31日～6月1日

会場：大宮ソニックシティ2階小ホール

「第78回総会・館長・司書会議」(2007.5.31)

「第78回総会・分科会」開催(2007.6.1)

組織委員会と協力し4つの分科会を企画した。

- | | |
|--------------------------------------------|----------|
| ① 医学図書館としての専門性と認定資格制度 | 座長：坪内政義 |
| ② 患者図書室の必要性和設立のための問題点 | 座長：山口直比古 |
| ③ オープンアクセスと機関リポジトリ | 座長：酒井由紀子 |
| ④ 現行医学雑誌所在目録における「所在」情報提供：これまでの経緯と今後の展望について | 座長：宇野彰男 |

3) 第14回医学図書館員基礎研修会

(2007.8.3～8.5 事務局：岡山大学附属図書館鹿田分館)

参加者数 46名(大学25、病院14、公共図書館3、個人2、その他2)

テーマ「学術情報のマネジメント力を身につける」

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmla/event/kiso/14-kiso/14-yoko.html>

4) 第14回医学図書館研究会・継続教育コース

(2007.8.22～8.24 事務局：信州大学附属図書館医学部図書館)

テーマ：「医歯薬図書館では今そのニーズを知る」

参加者数

- | | |
|-----------|-------------|
| ①研究会 | 48名(発表者11名) |
| ②継続教育コース1 | 41名 |
| ③継続教育コース2 | 35名 |

5) 第4回情報プロフェッショナルシンポジウム【略称：INFOPRO2007 JMLA 後援】

(2007. 10. 31～11. 1 日本科学未来館)

セッション B1 : 電子ジャーナル (座長 殿崎正明)

セッション B3 : 医学・薬学情報 (座長 佐藤淑子)

トーク&トーク 「明日のインフォプロをめざして」

話題提供者「外国雑誌・書庫管理・専門職」殿崎正明

6) 第9回図書館総合展 (2007. 11. 9 パシフィコ横浜)

参加者数 約 190 名

日本薬学図書館協議会との共催によるフォーラム

「新たなニーズに対応する図書館サービスとその経営」

司会：竹内比呂也氏 (千葉大学文学部准教授)

講師：豊田高広氏 (静岡市立御幸町図書館長)

吉田倫子氏 (横浜中央図書館)

酒井由紀子氏 (慶應義塾大学利用者調査WG)

7) 海外研修

応募者なし、再募集後も応募者なし

8) 研究助成

応募者なし

9) 「医学図書館員基礎研修会」「医学図書館研究会・継続教育コース」の実施
マニュアル作成

計画どおり作成し協会のHPに掲載した。

10) 平成19年度日本医学図書館協会、協会賞・奨励賞選考委員会の開催

日 時：平成20年3月4日(火) 午後3時～5時

場 所：順天堂大学図書館 集談室

出席者：委員長 青木 仕 (順天)

委 員：大谷 裕 (東医)、押田いく子 (東邦)、佐藤淑子 (東女)

選考経過

平成19年度上記協会賞・奨励賞について公募締切日までに応募がなかったため、選考委員会委員より候補があがり、選考委員会において慎重に審査した結果、協会賞、奨励賞 各1名が決定し、教育担当理事、協会事務局に報告した。

11) その他

①規程改正

「教育・研究」関連の規程が改正され NPO 法人日本医学図書館協会要覧 2007 に掲載した。

②各種研修会などの部分参加

認定資格運営理事より、研究会・継続教育コースの部分参加について、修了証の記載事項の仕方、追加記載事項の工夫、またはその他各種の研修会等に

においても参加証明証等の雛形を検討いただきたいとの要望があった。

③奨学基金の応募

要覧の規程では募集は原則として年1回とあるが、いままではICMLの開催年に会議の発表者や参加者に奨学金を給付した実績がある。来年度以降の募集計画を検討したい。

④日本薬学図書館協議会との教育事業提携について再確認し、制度委員会の指導のもと文書を交わし理事会へ報告した。

3. 問題点

① 医学図書館員基礎研修会の標準テキストについては来年度以降に発行予定とすることとした。

② 「医学図書館員基礎研修会、医学図書館研究会・継続教育コース地区持ち回りローテーション」表(要覧2007 p.61)の見直しが必要と思われる。

提案イ

「医学図書館員基礎研修会」「医学図書館研究会・継続教育コース」をそれぞれ隔年開催とする。

提案ロ

実行委員会を固定化する。

Ⅷ 認定資格運営

1. 委員

担当理事 吉江吉夫(松歯)

委員長 山崎美智子(個人)

委員 殿崎正明(日医)、佐藤淑子(東女)、酒井由紀子(慶應)、福広利明(個人)、永田治樹(筑波大学)、星和夫(個人)

オブザーバー 山田久夫(会長)、木村博(事務局長)

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

1) 平成19年度認定資格運営委員会は下記のとおり4回開催された。

開催日時：平成19年 7月31日(火) 13:30~17:00(第8回審査)

平成19年 8月 3日(金) 14:00~17:30

平成19年 12月 3日(金) 13:40~17:10

平成20年 3月10日(月) 13:00~17:00(第9回審査)

開催場所：野口英世記念会館 第2会議室

2) 認定資格審査

第8回の認定資格審査では初級2名の申請について認定審査を、また第9回の認定資格審査では初級12名の申請について認定審査を行い、合格と認めた。

この結果を理事会に諮り承認された。

3) 申請時の提出書類について

提出書類について、不備の申請者が見受けられるため対策を検討した。

また、HP等にもより詳細な記載事項を載せ、注意の喚起を促すこととした。

4) 広報活動について

評議員会答申に基づきPR活動等を積極的に行なうことなどを検討した。

今後も広報活動は必要不可欠である。

5) その他

今後、ポイント表の継続的な精査を行った。

認定資格規程はさらに整備を図る必要がある。

会員への優遇措置については引き続き検討する。

3. 問題点

1) 認定資格規程及びポイント表について

申請ケースによっては未整備な部分が残る。今後の対応を含めたより良き方法を模索する必要がある。

2) 認定制度の今後について

申請者が減少している。協会内等で一定の需要を充たしているとも考えられるが個々の職場等のケースでは、研修会等への出席が難しくポイントがなかなか溜まりにくい場合もあるため、規程及びポイント表等のあり方をさらに検討する必要がある。

Ⅸ 組織・制度

1. 委員

担当理事 坪内政義（愛医）

委員長 成田俊行（埼がん）

委員 磯野 威（科学院）、河合富士美（聖ルカ）、作野 誠（愛歯）、
園田國昭（個人）、松坂敦子（個人）

2. 活動報告と年間目標に対する達成状況

1) 評議員会や地区会制度の改定に伴い諸規程を点検し、改定案を理事会に諮った。詳細は第4項参照のこと。

2) 委員会の記載順序に統一性を持たせるため、定款第5条「協会の事業」の順序に準じた配列を慣例化することを提案した。あわせて、委員会構成と位置付け、名称なども整理。また、役員選任に関する細則の別表「理事職務」表の改定も提案した。詳細は第4項参照のこと。

- 3) 現行の会員種別は保健系大学・学部図書館が入会する際、適用しにくい場合がある。そのため、種別の見直しと新種別に適用する会費及び表決権について検討した。ただし、重要な案件であるため結論を急がず、新執行部のもとで抜本的な改定を行うことを提案した。
- 4) 会員の権利と義務について整理し、広報等で使用する一覧（案）を作成した。
- 5) 病院図書室会員を中心に部会立ち上げを要望する声がある。具体化に向けて、組織・制度上の問題点を整理、検討した。

3. 問題点

前項 3) に関しては、評議員会に諮問するなどの慎重な審議が必要である。

- 1) 会員種別の見直しには以下のような案がある。
 - A. 機関会員と個人会員を区分しない。(同一会費、同一表決権)
 - B. 機関会員と個人会員を区分するが、機関会員は区分しない。
 - C. 機関会員と個人会員を区分し、さらに機関会員を区分する。
 - c1. 保健系大学とそれ以外の大学及び大学以外の機関会員（現行）
 - c2. 大学と大学以外の機関会員
 - c3. 医歯学部を持つ大学とそれ以外の大学及び大学以外の機関会員
 - c4. 予算、学生数、専任職員数、蔵書規模など何らかの基準による区分
- 2) 正会員C、協力会員、維持会員（個人）の存在理由を再確認する必要がある。
- 3) 会費の改定は財政面からの検討が必要である。なお、現会員の種別（会費）変更が生じた場合には移行措置を考慮することが望ましい。
- 4) 表決権に、会員種別や会費負担額、協会運営に関する負担の大小によって差異を設けることは定款に明記されていれば可能と考えられる（NPO 法第 30 条「民法第 65 条」）。以下のような案がある。
 - ・正会員 A=3、正会員 B=2、正会員 D=1
 - ・医歯学部を持つ大学=4、それ以外の大学=3、病院・研究所=2、個人=1
 - ・会費負担額に応じて、8、4、1、など

4. 理事会での承認事項

以下、平成 20 年 4 月 18 日付け承認、施行。

1) 規程類の改定

①理事会の運営に関する細則 第 2 条第 7 項

現行 理事会は、会長の指示により必要な事項を審議し、評議員会に報告する。

改定 理事会は、会長の指示により必要な事項を審議する。

②名誉顧問及び会友に関する細則 第 3 条第 1 項及び第 2 項

現行 第 3 条 名誉顧問は、会長経験者を対象に会長若しくは理事会が発議し、評議員会の議を経て会長が委嘱する。

2 会友は、60 歳以上で 2 期以上の理事経験者又は同等の功績がある者

を対象に、地区会の推薦により、理事会が発議し、評議員会の議を経て会長が委嘱する。

改定 下線部(2箇所)「評議員会の議を経て」を削除する。

③委員会規程 第2条第2項及び第3項

委員会記載順序を変更、奨学委員会を削除、受託事業委員会を追加する。第3項に下線部を追加する。

改定 2 常設委員会は、次の委員会とする。

- (1) 企画・調査委員会
- (2) 機関誌「医学図書館」編集委員会
- (3) 出版委員会
- (4) 広報委員会
- (5) 雑誌委員会
- (6) 教育・研究委員会
- (7) 認定資格運営委員会
- (8) 受託事業委員会
- (9) 協会賞・奨励賞選考委員会
- (10) 組織・制度委員会

3 臨時委員会は、理事会が必要と認めたときに一定期間設置する。ただし、常設委員会が統括する臨時委員会はこの限りではない。

④中央事務局規程第6条

下線部を追加、以下繰り下げ。

改定 第6条 中央事務局の事務分掌は次のとおりとする。

- (1) 会員に関すること。
- (2) 理事会、評議員会、地区会事務局及び総会に関すること。

2) 委員会記載順序とそれぞれの位置づけに関する基準

定款第5条(1)～(7)に示された協会事業、その他	常設・臨時、親・子委員会	備考
(1) 保健・医療関連図書館に関する調査、研究並びに開発	企画・調査委員会	常設
(2) 機関誌及び刊行物の発行	機関誌「医学図書館」編集委員会	常設
	出版委員会	常設
(3) ホームページによる広報	広報委員会	常設・親
	ホームページワーキンググループ	子
(4) 保健・医療関連図書館及びその蔵書に関する情報の収集、提供、相互利用	雑誌委員会	常設・親
	相互利用マニュアル検討委員会	臨時
(5) 保健・医療関連図書館に関する教育普及及び認定資格事業	教育・研究委員会	常設・親
	医学図書館員基礎研修会実行委員会	子。教育・研究委員会が所管し、組織する。
	医学図書館研究会実行委員会	
	継続教育コース実行委員会	
(6) 国内外の関連機関、団体との交流、協力提携及び共同事業の推進	研究助成選考委員会	子。教育・研究委員会が兼任する。
	海外研修事業(審査委員会)	
	認定資格運営委員会	常設
	受託事業委員会	常設・親
	ガイドラインワーキンググループ	子
	協会賞・奨励賞選考委員会	常設
	奨学(基金審査)委員会	臨時
	(7) その他目的を達成するために必要な事業	国立ライフサイエンス情報センター(仮称)推進準備委員会
将来計画検討委員会		臨時(終了)
協会運営に関する上記以外の委員会(資料によって、事業系委員会の前又は後に置く)	組織・制度委員会	常設
	総会組織委員会	臨時
	会員増加推進ワーキンググループ	臨時
	役員選挙管理委員会	臨時

3) 「役員選挙に関する細則」別表（理事職務）の改定

職務名		人数	担当委員会
会長		1名	
専務理事		1名	総会組織委員会
理事	総務会担当	兼務	受託事業委員会 ガイドラインワーキンググループ
	財政担当	1名	
	組織・制度担当	1名	組織・制度委員会
	企画・調査担当	1名	企画・調査委員会
	出版・編集担当	1名	機関誌「医学図書館」編集委員会
			出版委員会
	広報担当	1名	広報委員会 ホームページワーキンググループ
	雑誌担当	1名	雑誌委員会
	教育・研究 及び認定資格担当	3名 + 兼務 1	教育・研究委員会 医学図書館員基礎研修会実行委員会 医学図書館研究会実行委員会 継続教育コース実行委員会 研究助成選考委員会 海外研修事業（審査委員会）
認定資格運営委員会			
協会賞・奨励賞選考委員会			
奨学委員会			
その他の臨時的職務	兼務	国立ライフサイエンス情報センター設立準備委員会 相互利用マニュアル検討委員会 会員増加推進ワーキンググループ その他	

注3 役員選挙管理委員会は評議員会が所管する。

X 国立ライフサイエンス情報センター(仮称)推進準備

1. 委員

担当理事	殿崎正明 (専務理事・日医)
委員長	殿崎正明 (専務理事・日医)
委員	浅井将行 (昭和)、阿部信一 (慈恵)、北川正路 (総務担当理事・慈恵)、 澤田紘子 (医師)、篠原寿美江 (個人)、成田俊行 (埼がん)

2. 年間目標

1) 関連団体との連携協力

6月にワーキンググループを開催し、各団体でまとめたそれぞれの問題の解決の視点も含め、試作版のコンテンツ等を各団体で3段階(1. 必要か、2. 可能か、3. どのような情報・資料を扱うか)での評価をすり合わせて調整し、正式版としてポータルサイトを一般公開する。また、9月には日本図書館協会や国立国会図書館、国立大学図書館協議会などにも話し合いに加わってもらい、必要に応じて、代表者会議を開催する。

2) 「一般市民への保健医療情報の提供」シンポジウムの開催

関連する類似のセミナーや講演会の時期や場所等を勘案の上、本事業趣旨の広報を進めるために「一般市民への保健医療情報の提供」をテーマに、シンポジウムなどを開催する。(当年度内)

3) 必要な調査研究の実施

「国立ライフサイエンス情報センター(仮称)」設置推進へ向けて、必要な調査研究を随時行う。(当年度内)

4) 国の担当部局とのチャンネルづくり

9月以降、国立国会図書館や国立大学図書館協議会などと協議しながら、国の担当部局とのチャンネルづくりを進める。(当年度内)

なお、上記は「国立医学図書館(仮称)検討委員会『最終報告』」の「提言」(以下)にそって進めるものである。

①ライフサイエンス情報を扱う関係団体の代表者により構成される推進会議を設置する。

②推進会議の下にライフサイエンス情報に関わる問題毎の分科会を設置する。

③ライフサイエンス情報の蓄積・流通に関する一般向け公開シンポジウムを開催する。

④ライフサイエンス情報を扱うセンター館的機能のモデルを構築する。

⑤既存の関係団体を再編成し、新たなセンター館的機関の創設を国に働きかける。

3. 年間目標に対する達成状況

1) 関連団体との連携協力

ライフサイエンス系図書館団体の協力事業のテストケースとして、また国立ライフサイエンス情報センター（仮称）の理念を具体的に実践するための Web 上での試みとして、ライフサイエンス系図書館 5 団体（日本薬学図書館協議会・日本農学図書館協議会・日本看護図書館協会・日本病院ライブラリー協会・近畿病院図書室協議会）と共同で一般向け健康医療情報ポータルサイト「からだところの情報センター」を構築した。構築に当たっては、各団体の委員からなるワーキンググループを組織し、各団体間の意見調整を図った。予定よりも遅れたが平成 20 年 1 月 11 日に一般公開した。公開後、各団体のホームページにリンク情報を掲載及び会員への広報を行った。公開後の質問等への対応はワーキンググループで行うが、内容によっては各団体で検討する。

この他、平成 19 年 9 月頃を予定していた日本図書館協会や国立国会図書館、国立大学図書館協会などへの話し合いの拡大については年度内には取りかかれなかった。

2) 「一般市民への保健医療情報の提供」シンポジウムの開催

事業趣旨の広報を進めるために「一般市民への保健医療情報の提供」をテーマに、シンポジウムなどを開催する計画については、関連団体との意見調整が遅れ、年度内には開催できなかった。

3) 必要な調査研究の実施

ポータルサイトの公開までに時間を要し、関連団体間やワーキンググループの活動で具体的な方向性が出るまでに到らなかったため、特に調査研究は行わなかった。

4) 国の担当部局とのチャンネルづくりの推進

「国立医学図書館（仮称）検討委員会最終報告」で挙げられている機能について、一つの省庁にすべての機能の実現を求めるのではなく、各省庁や団体ごとに関連する機能の実現を働きかけていくために、当協会としての優先度や重点ポイントを検討したが、結論までには至らなかった。なお、各具体案について協会内の他委員会と関連する内容に関しては理事会内で調整することを確認した。

4. 問題点

1) 関連団体との調整と協調

本事業の本来の趣旨から関連他団体との協調が必要であり、日本医学図書館協会のみ事情とスケジュールで活動を進めることが難しい（各団体間及び各団体内での調整が必要）。

2) 「国立医学図書館（仮称）検討委員会『最終報告』」の「提言」の実現

推進会議の立ち上げの段階から、他団体・機関との調整作業には慎重を要し、予定通り進まない。